

### 天文観測施設めぐり (IX)

大阪・京都・和歌山・奈良・兵庫(東)

近年、一般大衆の宇宙への関心は増加の一途であるにもかかわらず、それを満たしてくれる公共施設は著しく不足しているのが現状である。設備面でもさることながら、主体が夜間になることや、都市部では光害の影響もあって、かかえる問題は甚だ多い。しかし、最近になって関西でも、同好の志による小さな観測所が次々に建設されて、地域天文活動に少なからず寄与し始めたことは実に喜ばしいことである。尚、本稿に紹介した公開観測施設の利用にあたっては、各施設により状況が若干異なるので事前に参加方法等問合せられたい。

大阪/南海高野線三国ヶ丘駅にある堺市立科学教育研究所では、毎回テーマを定め、プラネタリウムで予備知識を与えたのち、屋上に据付けられている30cm反射(西村)と15cm屈折(五藤)を使って天体観察会が開かれている。

・市民科学の集い; 10月: 月と金星, 11月: 秋の星座, 3月: 木星・土星の各天体観察会。

・親子科学教室; 9月: 太陽, 1月: 冬の星座観察会。

京都/京阪線藤ノ森駅近くの京都市立青少年科学センターでは、毎月1回市民天体観望会が開かれている。ここでも観望会とプラネタリウムを有機的に結びつけて素晴らしい成果をあげつつある。望遠鏡は最近オーバーホールされた25cm屈折(五藤)を主力に、小型機が数台準備されている。

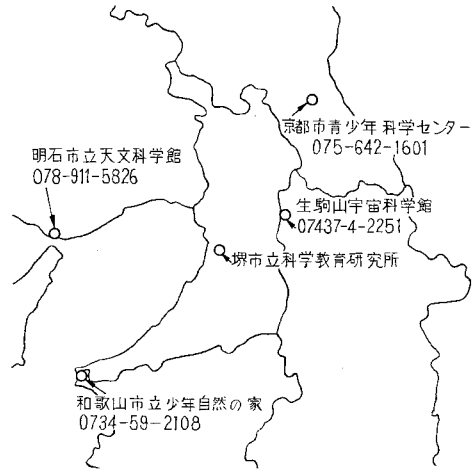
・観望会テーマ; 10月: 地球と宅宙, 11月: 隣の宇宙, 12月: 星の誕生。

奈良/国定公園生駒山上にある生駒山宇宙科学館は公立ではないが、60cm反射が据付けられており、月1回程度、天文現象にあわせた観察会が開かれている(有料)。

和歌山/海水浴場で知られる加太海岸近くの和歌山市立加太少年自然の家には、15cm屈折が据付けられており、

利用者は随時太陽観察が行なえる。原則として夜間の公開は行なわれていないが、事前に申込みがあれば夜間観測も不可能ではないようである。

兵庫/東経135°日本標準子午線上に建てられている明石市立天文科学館では、15cm屈折(日本光学)を使用した天体観測会が、月1回程度開かれている。また館内展示では晴れば25cmシーロスタット(西村)で太陽像を見ることができる。(菊岡秀多)



◇ 9月の天文暦 ◇

日	時	記	事
3	1	朔	
5	6	水星	西方最大離角
8	9	白露	(太陽黄経 165°)
10	12	上弦	
14	19	月	最近
17	4	望	
23	18	秋分	(太陽黄経 180°)
24	14	下弦	
26	15	月	最遠
27	11	月	木星の5°S通過
30	8	月	土星の3°S通過

◇ 9月の日月惑星運行図 ◇

